

# 令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立可児高等学校

学校番号 41

## I 自己評価

1 学校教育目標	「自ら学ぶ」「自ら治む」「自ら鍛う」の自立の精神を涵養し、人間性豊かで心身ともに健全な青年を育成し、清新はつらつの校風の樹立を図る。	
2 評価する領域・分野	◇希望する進路が達成できる高校になっているか（学習・進路指導）	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は、「授業内容について信頼ができる」84%、「授業がわかりやすい」69%と評価をしている。</li> <li>・生徒は、小テスト・課題について、1年36%、2年77%、3年84%と年次進行で有益さを実感している。</li> <li>・学習塾等の必要性は少ないと感じる保護者は38%に留まっている。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習習慣を身につけさせ、主体的・対話的で深い学びを目指す指導を行う。</li> <li>・キャリア教育を充実し、生き方あり方の指導を行う。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年部の取組を中心に、教務部・進路指導部が協力して学力の向上を図る。</li> <li>・特別活動部・進路指導部が各分掌の協力のもとキャリア教育の充実を図る。</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な学習を支援するための授業改善を図り、小テスト、週末課題等自宅学習、考査や模擬試験への取組を充実させる。</li> <li>・授業研究の充実、定期考査や模擬試験等の結果の分析、入試問題研究会等への積極的な参加。</li> <li>・キャリア支援プログラムの充実。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒による授業評価、大学合格者数、対外模擬試験の全国レベルでの達成度。</li> <li>(2) 教員の各種研究会での発表や参加者数。</li> <li>(3) キャリア教育関係行事の実施回数・参加者数。</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Classi（学習支援クラウドサービス）を導入し、個別最適な課題提供、家庭学習状況把握を行う。</li> <li>・授業の相互参観、各種研究会への参加及び発表を行う。</li> <li>・外部活力と連携し、「はつらつ講座」「地域課題解決型キャリア教育」等キャリア教育関係行事を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒の学力は向上したか。</li> <li>②職員相互の積極的な相互参観・授業研究会、外部研究会等の情報交換が行われたか。</li> <li>③生徒の進路希望を高めることができたか。</li> </ul>	<p>A (B) C D</p> <p>A B (C) D</p> <p>(A) B C D</p>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Classiの導入により、生徒との双方向のコミュニケーションが容易になり、個別に学習支援ができた。また、生徒の情報を複数の教員で共有でき、チームで学習支援ができた。</li> <li>○生徒は各キャリア支援プログラムに積極的に参加し、視野を広めることができた。</li> <li>○地域課題解決型キャリア教育、地域共創フラッグシップハイスクール事業、エンリッチ活動において、生徒は視野を広め、考えを深めることができた。</li> <li>▲毎日の小テスト、週末課題、教科会での授業相互評価、模試結果分析等様々な取組みが大学入試結果に表れてはいるが、十分とはいえず、ICTの導入も視野に入れ見なおしが必要である。</li> <li>▲コロナウイルス感染症の影響で、教員研修や授業相互参観の機会を十分にとることができなかった。</li> </ul>	
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1台のタブレットが配備され、ICTを活用した学びの充実を目指す。</li> <li>・地域課題解決型キャリア教育を「総合的な探究の時間」に組み込み、ゼミ形式の探究型学習へと移行す</li> </ul>		

る。オンラインを駆使し、世界とつながり、グローバルな視点から地域の課題解決を考える力をつける。令和4年度からの本格実施のために、来年度は2年生希望者で先行実施をする。

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月

### 【意見・要望・評価等】

- ・現在および未来社会を生きる人間を育てるには、ICT教育は要であるが、デジタルの負の面も考え合わせると、校内推進体制に示される「連絡・相談」「連携」を重視し、「個」に「分断」されない学習集団づくりも一層求められると感じている。
- ・情報化が進む中、タブレットを使用しての学習は大いに進めるべきと考える。
- ・県進学指導重点校事業の成果を生かしながら、さらに情意面ではコアな部分（何のために生きるのか、何を目指して学ぶのかなど）を地域共創フラッグシップハイスクールやエンリッチ事業などを生かして一層育てて欲しい。
- ・進路設計が多岐に亘るようになっており、それに対応すべくいろいろな見通しなどの手立てがなされていると評価する。

## 令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立可児高等学校

学校番号 41

### I 自己評価

1 学校教育目標	「自ら学ぶ」「自ら治む」「自ら鍛う」の自立の精神を涵養し、人間性豊かで心身ともに健全な青年を育成し、清新はつらつの校風の樹立を図る。	
2 評価する領域・分野	◇礼儀正しい高校生を育成する高校になっているか。（生徒指導）	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間としての基本的なモラルやマナーを身につけさせようと努めていることに対する肯定的評価が生徒83%、保護者73%と高い割合を示している。</li> <li>・いじめや差別に対する対応について、生徒の肯定的評価が73%と高い数値ではあるが、否定的評価が7%ある。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇遅刻者の一層の減少。</li> <li>◇情報モラルに関わる問題の減少。</li> <li>◇端正な身だしなみ。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻者に対する指導を、教育相談とも連携して行う。</li> <li>・1年生は、早期に集中的に情報モラル指導を行う。</li> <li>・身だしなみ指導では職員全員でのチェックカード方式をとる。</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 毎朝の遅刻者指導と呼出し指導	(1) 遅刻者延べ数 年間600回以下	
(2) 身だしなみチェックカードと個別指導	(2) 呼び出し指導 年間10件以下	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・毎朝の全職員での遅刻指導	①遅刻者が前年より減少したか。	A (B) C D
・チェックカードによる個別指導	②制服の着こなしの適正化。	(A) B C D

11 成果・課題	<p>○いじめがないわけではないが、重大事案に発展するケースは皆無であった。</p> <p>○身だしなみでは、指導を受ける生徒がほとんどいなかった。</p> <p>○教育相談を要する生徒が継続的に遅刻をしているが、大半の生徒について遅刻について個人指導を行ったのは2名のみであった。</p> <p>○スマートフォンのSNSなどの書き込みについてはコロナ禍の影響で校外で活動する生徒が減少したため、指導を行った例は1件のみである。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <p>教育相談を必要とする生徒が増加し、継続的な遅刻や欠席が多い。今後更に、生徒理解に努め、早めの対応を行うことが必要であり、研修等を通じて職員の意識改革を行っていく必要もある。情報モラルについても継続的な指導が不可欠である。また、自ら進んで挨拶ができない生徒が多く、本来のコミュニケーションを始めるきっかけとしての挨拶を促進していきたい。</p>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校等悩みを抱える生徒に対しては、個別の対応と臨機応変の指導が必要である。今後も、きめ細かい指導をお願いしたい。</li> <li>・いじめに関して本年度は4件ほどであったが、毎回組織で対応することが大切である。</li> </ul>
---

## 令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立可児高等学校 学校番号 41

### I 自己評価

1 学校教育目標	「自ら学ぶ」「自ら治む」「自ら鍛う」の自立の精神を涵養し、人間性豊かで心身ともに健全な青年を育成し、清新はつらつの校風の樹立を図る。	
2 評価する領域・分野	◇交通安全教育に重点を置く高校になっているか。(生徒指導)	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・交通安全への取組に対する肯定的評価は、生徒91%、保護者86%と高い評価である。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車事故の減少</li> <li>・交通安全啓発活動の充実・通学路整備</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の3班方式による登校指導と保護者の協力による登校指導</li> <li>・可児警察署や自動車学校との連携</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) PTAの方々とは共同開催の登校指導	(1) 交通事故件数の減少	
(2) 自転車点検、交通講話、集会指導	(2) 自転車の交通マナー違反者の減少	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・早朝に多くの職員・保護者の方の参加により登校指導を行い、挨拶、身だしなみを含めた指導を行った。</li> <li>・交通マナー徹底のため、マナー違反者に対する個別指導を導入している。</li> </ul>	<p>①交通事故件数が減少したか。</p> <p>②登下校時の交通マナーが向上したか(苦情や違反者は減ったか)。</p>	<p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p>

11 成 果 ・ 課 題	<p>○自転車マナー違反者については可児高ルール（坂道乗車違反等）では10件以下であった。その中で交通法規違反はなかった。</p> <p>○コロナ禍で1年生を対象に早い時期に交通安全教室を可児自動車学校で開催していたが、本年度は中止となり残念であった。可児警察署から講師を招いて全校生徒対象に交通安全講話を開くことができ、交通安全意識を実践的に高めることができた。</p> <p>○交通事故件数は例年に比べ減少した。4月～6月の休校が影響している。1年生の事故は6件と例年より減少している。</p> <p>▲機会ある毎にマナー意識向上を訴えているが、学校から離れた場所での交通マナーの改善に努める必要がある。保護者の車での送迎マナー向上についても啓発の必要がある。</p>	<p>総 合 評 価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交差点での一時停止や自動車の運転者とのアイコンタクトを徹底する。また、自転車の並列での事故も多いため、並列進行やスピードコントロールの指導も強化する。自転車は軽車両であり、被害者にも加害者にもなる意識を持つように意識づけを行い、更に安全運転、事故防止を心がけさせる。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車通学の生徒を毎朝見ているが、よくマナーを守れていると感じる。</li> <li>・生徒数に比べ事故件数が少ないと感じる。交通安全標語に感じられる生徒の意識として、自覚に基づくセルフコントロールが働いていると感じる。</li> </ul>
---